

令和4年度 第1回今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会 会議録

- 1 日時 令和4年5月31日(火) 午前10時00分～午前11時00分
- 2 会場 今治市役所 第2別館11階 特別会議室3・4号
- 3 議事 地方創生推進交付金事業(令和3年度実施事業)の効果検証について

- 4 出席者 <座長>
正岡企画防災政策局長

<専門委員>

瀬野 哲郎	渡部 輔	越智 善一	山崎 昭二
村上 直樹	二宮 隆	吉武美由紀	川田 卓哉
高田 誠也	宇佐美浩子	村上あらし	上村 友希
岡村 泰彦			

<構成員>

健康推進課	村上 能朗	福祉政策課	村上 留実
産業振興課	月原 康博	観光課	越智 香織
地域振興課	鳥生 宏	農林水産課	渡部 誠也
市民参画課	片上 幸子	防災危機管理課	伊藤 政英
未来デジタル課	佐伯 栄一		

<オブザーバー>

伊予銀行 今治支店
愛媛銀行 今治支店
日本政策金融公庫 新居浜支店

<PT及び事業担当者>

総務管財課	青野 竜也	地域振興課	渡邊 泰洋
こども未来課	青野 光尚	道路課	細見 博也
下水道業務課	西原 孝	消防本部総務課	新田 康雄
教育大綱推進課	渡部さおり		

<事務局>

市民が真ん中課 馬越課長、吉岡課長補佐、中田課長補佐、川崎係長、月原主査、井上主査、藤井主事

日 時 令和4年5月31日（火）10:00～11:00

場 所 今治市役所11階特別会議室3、4号

<p>事務局</p>	<p>本日は、ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から令和4年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を開催いたします。</p> <p>私、事務局を務めさせていただきます市民が真ん中課長の馬越でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、座長であります企画防災政策局長の正岡からご挨拶申し上げます。</p>
<p>座長</p>	<p>皆様、こんにちは。座長を務めさせていただきます、企画防災政策局長の正岡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>この企画防災政策局というのは4月1日に新たにできた組織でございます。私が所管しているのは「市民が真ん中課」いわゆる企画部門で、それから「未来デジタル課」というDX関係の課、それから「秘書広報課」、そして最後に、「防災危機管理課」の四つであります。その局長となりました私が今回座長をさせていただくことになりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては14名の専門の委員の方々、それから三名の金融機関のオブザーバーの皆様、大変お忙しい中お集まりいただきまして、まずもって厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>本日はお手元の資料のとおり説明して参りますので、様々なご意見をいただけたらと思っております。</p> <p>さて、人口減少の抑制に向け策定いたしました「今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、記載されている各種事業を順次、国からの交付金を活用しながら実施しているところでございます。これらの事業実施に際しましては、皆様のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、この交付金を活用した事業の実施効果について、国の制度上、検証を行う必要がございます。本日の懇談会では、その交付金を活用し実施した令和3年度実施事業における数値目標の達成度</p>

<p>(つづき)</p>	<p>や効果検証について、委員の皆様からのご意見を頂戴したく存じます。</p> <p>なお、本懇談会は公開会議とさせていただいておりますので、会の途中で傍聴される方が入室する場合もございますので、ご了承いただければと存じます。</p> <p>会議録におきましても、市の公式ホームページにて公開させていただきますので、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。</p> <p>それでは、本日はどうぞよろしくお願いいいたします。まずは、本日の議事の進め方について事務局からご説明いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご説明の前に、新たにご就任いただきました専門委員さんをご紹介させていただきます。</p> <p>今治地方観光協会 事務局長 石丸司様に代わりまして、山崎昭二様でございます。</p> <p>(山崎です。どうぞよろしくお願いいいたします。)</p> <p>越智今治農業協同組合 営農企画課長 赤瀬祐三様に代わりまして、村上直樹様でございます。</p> <p>(村上です。どうぞよろしくお願いいいたします。)</p> <p>どうぞよろしくお願いいいたします。なお、OK 会計 税理士 相原正樹委員は、都合により欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>それでは、まず、本日ご意見をいただく地域再生計画と地方創生推進交付金の制度概要からご説明いたします。</p> <p>地方創生推進交付金は、「総合戦略」に基づく、自主的・主体的で、官民協働、地域間連携、政策間連携等の要素を含む先導的な事業に対して、国から必要経費の2分の1が交付金として交付されるものでございます。</p> <p>この交付金を受けるためには、実施しようとする事業を記載した「地域再生計画」を策定する必要があるとあり、計画には、事業の具体的内容や、KPI、評価体制等についての記載が求められます。</p> <p>計画の取組をより効果的に進めるためには、この評価体制の部分で、各数値目標の達成度により事業の進捗状況を検証し、それを反映させて改善していく仕組みが求められております。</p> <p>外部専門委員の皆さまからのご意見を頂戴し、しっかりとした効</p>

(つづき)

果検証を実施する必要があるございますので、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

続きまして、各地域再生計画の概要についてご説明します。

まず資料1「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」でございます。

計画の概要は、「今治」の各コンテンツを包含する新しいブランドイメージ、マスターブランドを創り、それを効果的にシティプロモーションに活かすことで、サイクリストを含めた観光客など交流人口の拡大や域内での滞留時間の延長に繋がる取組みを進めること。併せて、市民生活や各種活動などあらゆるシーンにブランドイメージが浸透するように普及啓発事業、シビックプライド醸成を実施するものです。

計画期間は当初計画の令和元年度から3年度までの3年間でしたが、企業版ふるさと納税を活用することで計画期間を延長できるインセンティブ制度を活用し、令和5年度までの5年間となっております。

次に、資料2「今治スタイル「移住力」強化事業」でございます。

計画の概要は、人口減少対策を分析し、新たな施策へと転換し、既存施策間の連携強化やデジタル技術等を活用するなどして、都市部の高スキル人材に魅力的にうつる地域コミュニティづくりを進めていくとともに、本市の持つ地域資源のポテンシャルを最大限活用することで、移住希望者にとって憧れの移住先として名前が挙がるよう、地域が一丸となって構造改善を行う取組を推進するものです。

計画期間は令和3年度から5年度までの3年間となっております。

残る、資料3「「新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業」でございます。

本市の経済・雇用の基盤であるものづくり産業を「価値づくり産業」へ転換させるために、市内企業等が参画する今治価値づくりコ

<p>(つづき)</p>	<p>ンソーシアムを構築し、参画した市内企業が、①新たな技術を有する企業とのマッチングにより新商品・サービスを開発する域外技術のインバウンド事業、②クリエイター等とのマッチングにより市内の既存技術を新たな用途へ開発する域内技術のアウトバウンド事業に取組み、さらに、本事業を通じて得られた成功事例やスキル・ノウハウを蓄積・共有し、本市における価値づくりへの転換を促す取り組みを実施いたします。</p> <p>計画期間は令和3年度から5年度までの3年間となっております。</p> <p>以上が、各地域再生計画の概要でございます。</p> <p>次に、これから皆様に協議していただくにあたり、議論の進め方についてご説明いたします。</p> <p>まず、今回ご協議いただく計画ごとに作成しております、資料1～3の地域再生計画評価調書について、KPIの達成状況と、実施した具体的事業の概要と事業の実施効果や今後の方針等についてご説明申し上げ、そのあと、事業ごとに区切って委員の皆様からご意見をいただくという流れで進めさせていただければと思います。</p> <p>以上が協議の進め方でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>本日の議事の進行について、なにかご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、先ほどの事務局の説明のような流れで進行させていただきますので、積極的なご発言をよろしくお願いいたします。</p> <p>さっそくですが、本日の議事、地方創生推進交付金時事業（令和3年度実施事業）の効果検証について、協議をさせていただきます。</p> <p>はじめに、資料1、地域再生計画評価調書「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について、担当課よりご説明します。</p>

産業振興課 (月原課長補佐)	<p>それでは、「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について説明いたします。</p> <p>事業は大きく2つあります。</p> <p>まず一つ目は、アイアイ今治キャンペーンを対外的に発信し、観光客など交流人口の拡大や域内での滞在時間の延長につなげる、また市民や地元企業と共創してモノやコトを創ることでブランドイメージを高める「今治」という地域ブランディング事業です。</p> <p>二つ目は、アイアイ今治キャンペーンを市民生活や各種活動などに浸透させることで、市民の「今治」に対しての愛着や誇りといったシビックプライドの醸成を目指す「今治」のシビックプライド醸成事業です。</p> <p>「今治」という地域ブランディング事業では、事業実施の効果として、公式ホームページの閲覧数が令和2年度の1.26倍の99,202件に増加、Instagramのフォロワー数も令和3年4月初めに比べて1.47倍の1,619人に増加しました。著名人を起用した情報発信や全国の自治体初の取組であったバーチャルストア、ラジオリスナーを巻き込んだ商品づくり企画などが奏功したと考えられます。瀬戸内の「海の文化」情報発信事業でも、イベントPRのみならず、村上海賊自体が、文化ツーリズム賞受賞や、地元金融機関から表彰を受けることで話題性が高まりました。</p> <p>「今治」のシビックプライド醸成事業では、事業実施の効果として、高校生の今治に対する認識が深まり、SNS投稿企画を通じて、市民の皆さんに本市の魅力を再認識いただけました。また、自転車愛好家にはサイクリングだけでなくアウトドアやアクティビティを、アクティビティ愛好家にはサイクリングに興味を持っていただけるような双方向の取組を行ったことで、滞在型観光及び誘客促進に繋がりました。さらには、市内小学校19校の4年生861名に対し村上海賊の出前講座を実施するなど、地域の歴史への正しい理解と次世代への「今治の海の文化」伝承ができています。とりわけ、本日皆さんのお手元にお配りしている今治ワクワクミリョク100名鑑につきましては、わずか2か月で1万部がなくなるなど好評を博しており、小学生から大人までシビックプライドを醸成し、一方で対外的に本市のミリョクを情報発信できるツールができたと考えております。</p> <p>事業を実施したことによる目標数値に対する実績値と、達成度に係る分析についてですが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての目標において、実績値が下回る結果となりました。また、目標3、若年人口の社会増減については、非常に厳しい状況が続いていますが、一朝一夕に効果が現われるものではない</p>
-------------------	---

	<p>ため、粘り強く事業に取り組む必要があると考えております。</p> <p>今後の方針、改善点などにつきましては、アイアイ今治キャンペーンの将来像（取組目標）を官民共創で明確化します。「今治」という地域のブランディング事業では、今後も新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、オンラインとオフライン（リアル）を織り交ぜながら事業を実施していきます。「今治」のシビックプライド醸成事業についても、地域の若者が進学等で転出しても、将来的に戻ってきたいとなるように、小学生や中学生、高校生を対象にした事業を実施していきます。加えて、市の施策でもロゴマークを多く活用するなど、市民の皆さんの目に触れる機会を増やしてまいります。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。1つめの事業、「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>特にはございませんでしょうか。</p> <p>（質問等なし）</p> <p>先ほどあった、ワクワクミリオク 100 名鑑についてですが、これはプロジェクトチームで若い職員が中心に作りました。好評を得ておりまして、様々な学校にも配ったりしておりますので、ぜひお持ち帰りいただいて、今治市に住まれている皆様の目から見て、こんなところがあるのだとお気づきの点や、皆さんにお伝えできる点があれば、引き続きこの今治市の魅力について、発信をしていただきたいと思っております。</p> <p>特にご質問等が無いようでしたら、本計画の効果検証につきまして、「今後の方針、改善点など」に記載しておりますとおり、必要な改善を加えながら取組を進めていくということで、ご了解いただけましたものとさせていただきます。</p> <p>異議なしということで、今後も進めて参ります。ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、資料2 地方創生推進交付金事業効果検証調書「今治スタイル「移住力」強化事業」について、担当課よりご説明します。</p>

地域振興課 (渡邊課長補佐)	<p>今治スタイル「移住力」強化事業についてご説明申し上げます。</p> <p>本事業の背景といたしましては、海事産業や繊維産業等の地場産業を背景とした「ものづくり」のまちとして発展してきた本市において、都市部住民や移住希望者に対して、地域事業者からの人材ニーズや理想の田舎暮らし環境などとの情報のマッチングを総合的にコーディネートする体制を整備し、新たな本市への人流を創生することを目的としています。</p> <p>まず、①理想のワークライフバランス環境整備事業です。</p> <p>本市地域資源を活用したワーケーション環境を、都市部で働く人たちが企業に対しPRし、コーディネートを通じて実際に体験してもらう事を目的とした事業です。</p> <p>令和3年度におきましては、関係人口の誘引に向けた調査、問題点の整理を行ったほか、観光事業者などを中心とした団体と連携し、環境整備とともにワーケーション誘客に努めました。</p> <p>関連する重要業績評価指標（KPI）の達成状況につきましては、目標3 ワケーションの実践として、目標の968.3%、1,162人・日と大幅な増加を達成しましたが、コロナ禍において新しい生活スタイルを求める都市部生活者からの旺盛なニーズを取り込めたことが要因だと考えています。</p> <p>また、ワーケーターによる新たな経済循環の出現と、地域住民との新たな交流創出で、都市部の高付加価値人材誘引につながる人的ネットワーク出現にもつながりました。</p> <p>次に、②移住・定住・関係人口の拡大推進事業です。</p> <p>さまざまな分野にまたがる移住相談を1カ所で済ませられる体制を「ワンストップコンシェルジュ」と位置付け、移住・定住にかかる諸問題の調査分析を、市職員を中心としたプロジェクトチームにより、専門分野からの助言を受け、総括的な関係施策の討議を経て提言が行われ、本年度より専任の「移住コーディネーター」の設置につながりました。</p> <p>さらには、地域資源のコンテンツ化を検討し、多様な移住希望者に対して、積極的な広報戦略に基づく情報発信方策として取りまとめました。</p> <p>KPIについては、目標1 ワンストップコンシェルジュ事業を通じた移住の実現といたしまして、目標の406.3%、65人の増加を達成したものの、目標2 移住希望相談件数については、目標の80%、40人の増加にとどまっていますが、都市部での移住フェアが開催できず、移住相談件数が伸び悩んだ一方、移住者総数は増加したこ</p>
-------------------	---

とによって、移住促進事業への取り組み者が堅調に推移したことが要因です。

続きまして、「空き家等の市場化促進事業」についてです。

一般的には「空き家バンク」と言われるものですが、移住希望者に対して、地域の空き家を住宅ストックとして速やかに情報提供できる体制整備することを目的としています。

まずは、空き家市場化コーディネート体制整備事業です。土地、建物に関する豊富な知見や折衝力を持つシルバー人材センター会員人材を登用し、空き家所有者との相談や物件調査業務を行ってもらいました。併せて、空き家データベース高度化整備事業では、本事業の関係機関による運用効率化を推し進めるべく、ネット上で安全かつ効率的に情報閲覧や登録等が可能となる「空き家バンクシステム」の骨格部分を整備いたしました。

KPI については、目標4 空き家バンクを通じた物件情報搭載数といたしまして、目標の125%、25軒の増加を達成しました。要因は、空き家相談窓口の周知を根強く図ってきたことの表れだと捉えています。

事業効果としては、空き家バンクシステムの整備を通じてデジタル面での運用基盤ができたことで、インターネットを通じた情報発信体制の基盤部分が整ったこと、また、調査等業務を高年齢層が担ったことで、年々不足する地域における新たな担い手確保につながりました。

今後の方針、改善点です。

移住や関係人口拡大に向けて、本市の持つ地域資源への「気づき」のための仕掛けとして、インターネット技術を駆使し、都市部住民に対するプロモーション活動を積極的に展開するとともに、アフターコロナを見据え、地域の実情に応じて自前で柔軟に体制整備を図るオンプレミス型の移住相談体制を確立し、必要な情報、人的ネットワークの集約化、整理を進めることとしております。

また、これらの取り組みの延長線上には、官民連携のコンソーシアム設立を目標としており、関係機関、団体の相互連携を図り、さまざまな相談に対応可能な体制整備を進めます。

お手元に私どもからお配りをしております資料の説明をさせていただきます。

こちらが「住もう！今治BOOK」という、昨年度広報に掲載させていただいた記事をまとめて作らせていただきました。

	<p>地域おこし協力隊と、移住者の方の今の姿というのを切り取って記事にさせていただいております。</p> <p>小冊子型で非常に読みやすく、移住を想起させるような内容として、積極的に活用していきたいと思います。また今年度もこのリバイスは作っていかうと思っております。</p> <p>続きましてこちらのポスターです。「住みたい田舎ベストランキング」第一位に子育て部門・シニア部門が選ばれました。昨年度のデータを基に、今年1月に発刊された宝島社の「田舎暮らしの本」の中で、1位を2部門で獲得させていただきました。</p> <p>ご存知の通り、隣の西条市がそれまで2年連続、これらの部門の一位を獲得していたのですが、今年でこの一位のところは西条市から取り代わり、今治が二位のところの一位は西条市という形になりました。</p> <p>今治市もこの移住促進の先進地として、やっと仲間入りができたということで、それを記念して、このポスター作っております。皆様方に一部ずつお配りさせていただいておりますので、事務所等でご活用していただければと思います。</p> <p>説明につきましては以上のとおりです。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。以上で、2つめの事業、「今治スタイル「移住力」強化事業」についての説明が終わりました。ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>空き家の市場化というか、そういった場所の整備というのは、利用する側や、興味のある方にとっては非常にアクセスしやすいところかなと思います。違っていたらすみませんが、それをするにあたってシルバー人材センターの方の活用というようなお話だったですけども、これ具体的にはどのような形で担っていただいたのでしょうか。</p>
<p>地域振興課 (渡邊課長 補佐)</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>使いやすい空き家バンク構築事業の資料が、今お手元の画面に出ていると思います。これが、先ほど申し上げた空き家バンクのシステムの部分になります。ここに至るまでの間、空き家の所有者からの相談業務というのが前段階であります。</p> <p>ほとんどの方は高齢者であったり遠隔地にお住まいであったり、空き家の状態というのをきちんと説明することが難しい。或いは宅建事業者さんへのアクセスに対して、難がある人が多いということ</p>

	<p>で、ここをつなぐ事業というのを、シルバー人材センターさんと共同でしております。</p> <p>要するに、シルバーの方は実践経験もたくさんありますし、空き家不動産に関する知識をお持ち合わせの方が多いと考えております。</p> <p>そういう方に、このシステムの間に入っていただいて空き家のことをお聞きしていただき、あとは物件調査をして、資料としてまとめていただくという事業を、この交付金事業の方を活用してさせていただいておるといふような状況です。</p> <p>ここで非常に精度の高い情報が得られますと、次に繋がってくるのは移住者の方への空き家情報の提供がスムーズにいくということで、こちらの方をご活用いただいて、現在空き家のリフォーム事業を愛媛県の補助金も使ってさせていただいております。今年度既に10件以上の申し込み、ご相談をいただいております、移住者の数も20人以上というふうな形の事業を行っております。</p> <p>そういったところの経済的な循環を、この全体像の方でも示させていただいているのですが、地域の方にも、このような経済循環の恩恵を得ることを目途として、すべての事業を総合的にコーディネートしていくことが我々の考え方でございます。</p> <p>以上でございます。ありがとうございます。</p>
<p>A委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>あと興味なのですけれども、今回宝島社で、住みたいまちということで今治市の名前がクローズアップされたと思うのですけれども、そのあとというのは結構変化があるものなのでしょうか。</p> <p>相談件数としては増えていたりするのでしょうか。</p>
<p>地域振興課 (渡邊課長 補佐)</p>	<p>はい。</p> <p>相談件数につきましては、実際肌感覚では増えています。昨年度は、そういったことで非常に注目されるようになって、残念ながら記録に取る時間がちょっと少なくなってしまい、相談自体は受けているのですが、今まで1件ずつカウントしていたものをカウントできなくなって、数値としての相談件数自体は一昨年度よりも減っています。</p> <p>ですが、そういうところもデジタル技術を活用して、今、基本的</p>

	<p>にすべての情報を共有できる体制、或いは数値としての相談件数を上げることのできる体制というものを構築しております。</p> <p>足元の状況、或いは我々が移住関係でお付き合いのある民間企業さんなどからのヒアリングをしておりますも、このコロナ明けで実際にしまなみ周りに来て、肌でこの空気を感じて移住を検討したっていう方が、増えつつあります。</p> <p>これは実感としてもそうですし、その件数としても、増えているというふうな、お話をよくお聞きしています。</p> <p>そのようなところを、我々システムの、きちんと漏れなくカバーできるような体制をこの事業で構築できればと思っておりますので、皆さん方にも、こういったことをしているということでご理解ご協力をいただければと思います。</p>
B委員	<p>すいません、事前に質問とかお送りしていませんけど大丈夫ですか。</p> <p>ありがとうございます。まず、この空き家バンクのすごいいいなと思ひまして、私自身、ちょうど4年前に移住してきたのですが、最初は、住むところを探すのに普通だと不動産屋さんに行って駄目だったら、こちらの場合やったら空き家バンクというものがあるというのを聞いていたのですが、結構ひどくて、物件の数が2年間ぐらい、1件も1回も変わらないで11件というふうな状態だったのが、</p> <p>最近結構よくなったということを知って、空き家バンクが機能するようになったことを感じて、本当に移住者が助かる素晴らしい取り組みだなと思います。</p> <p>あと、うちの会社は大三島で宿泊施設などを行っているのですが、人を今社宅っていう形で、一軒家・空き家とかも含めてお借りしております。例えば新しい社員を東京から採って、住ませるということを行っているのですが、やはりその物件探しとかも結構大変です。そこで移住の相談に来るような方に対して、うちに来たら仕事も家もありますよというようなアピールをしたいなと思ひまして、何か、もちろんうちだけじゃなくて他にもそういうところいっぱいあると思うので、そういう場所を、与えてくださると嬉しいなと思います。以上です。</p>

<p>地域振興課 (渡邊課長 補佐)</p>	<p>はい。こちらの方ですね、資料にも少し記載をしておりますが、資料の真ん中少し上の部分で、「おいで今治お試し移住滞在サポート事業費補助金」っていうのがありまして、こちらですね1人1泊当たり5000円、同行者1名6名分までというふうな、補助金の制度を作っております。</p> <p>移住相談の中で、各個事業者の方と繋がっていろいろ聞きたいというふうなことがございましたら、その相談を通じて、こういった事業のご提供、情報提供をさせていただくような制度を今年から始めておりますので、ご活用いただければと思います。また、空き家等を移住体験住宅として活動していくという事業も、本年度から徐々にスタートさせていただければというふうに思っております。</p> <p>社宅というふうなところでいうと少し外れるのですが、移住体験住宅、要するに中長期の移住体験ができる施設というのを、徐々に空き家を使って整備をしていこうという試みを、今年度からスタートしておりますので、また地域振興課としまなみ振興課それぞれ事務もございますので、そのようなところでお声がけをいただければ、その都度ご紹介をさせていただきます。</p> <p>よろしく申し上げます。以上です。</p>
<p>座長</p>	<p>はい。ありがとうございました。こちらの移住につきましても、現在情報発信など様々な事業を組み立ててやっております、おかげさまで先ほどご案内あったように、宝島社の「全国住みたい田舎ランキング」で、子育て部門とシニア部門でそれぞれ一応獲得をしました。</p> <p>しかし獲得したというだけで、今後実際に移住された方に対して、どのようなフォローができていくかということも非常に大切なことですし、今年からしまなみ振興局という、伯方にできた新たな振興局の設置に伴いまして、島しょ部を中心に移住に力を入れる施策を展開しているところでございますので、引き続いてこういった、空き家を利用した移住政策についても、精力的に進めていきたいと思っております。また、このコロナ禍においては地方が非常にチャンスでもあります。ワーケーションによる交流拡大などが進んでくる</p>

	<p>と思います。このようなところを今後活かしたいと思っておりますので、委員の皆様、また引き続きご理解、ご協力をよろしく願います。</p> <p>それでは続きまして、資料3 地方創生推進交付金事業効果検証調書「新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業」について、担当課よりご説明します。</p>
産業振興課 (月原課長補佐)	<p>『新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業』について説明します。</p> <p>本事業は、今治の産業パワーアップ推進事業として『今治共創ラボ』の運営を行う『今治価値づくりコンソーシアムの構築』事業と、地域に好影響を与えるモデル事業の創出を目指す『域外技術のインバウンド事業』、『域内技術のアウトバウンド事業』の三つの事業から構成されています。</p> <p>まず、『今治価値づくりコンソーシアムの構築』事業につきましては、昨年度の9月に開催した『今治共創ラボキックオフセミナー』を契機として立ち上げた『今治共創ラボ』の運営を行っております。評価指標の目標1にありますとおり、事業初年度となる昨年度は、29社の地元企業に『今治共創ラボ』の会員企業として参画いただいております。地元参画企業の目標数値としていた20社を超える地元企業に参画いただけたので、まずまずのスタートをきる事ができたのではないかと考えております。しかしながら、本コンソーシアムを運営する目的は、本事業全体から得られる成功事例や情報、ノウハウを地域に共有し、単なるものづくりから価値づくりへと企業マインドの転換を促すことにあることから、事業効果を高めるためにも、今年度以降も、より多くの地元企業が本コンソーシアムへ参画いただけるよう呼びかけて参りたいと考えております。</p>

また、『今治共創ラボ』には、価値づくり産業転換の担い手の育成機能も求めており、地元人材に運営側に参画いただくことで、支援スキルやノウハウを身につけてもらうとともに、関係事業者等とのネットワークの構築に繋げてもらい、その後の企業支援活動に活かしていただくこととしております。昨年度は、『共創ラボ推進委員』として12名の地元人材に参画いただき、事業を通じて、成功事例や支援ノウハウを共有させていただきました。これにより評価指標、目標2の目標数値である地元人材参画数10名につきましても達成しております。

次に、『域外技術のインバウンド事業』ですが、この事業は、域外から新たな技術を取り込み、自社技術と融合させることで、新商品・新サービスの開発等に取り組む事業者を支援し、地域に好影響を与えるモデル事業を創出することを目的としています。昨年度は、技術パートナー探索やユーザー開拓等に強みを持ち、ビジネスマッチング支援を得意とする企業をプロポーザルにより選定し、地元企業の伴走支援事業者に任命するところから事業を開始しました。その後、地元企業から事業参画を募り、個別ヒアリング等を通じて、域外から新たな技術を取り込むことで自社技術等の活用推進に繋がる可能性を有する支援企業を5社選出しました。評価指標の目標3であります初年度の新商品・新サービス開発件数の目標数値は、0件となっておりますが、この支援企業5社につきましては、昨年度の内に、伴走支援事業者のもと、各支援企業の課題解決に資する技術を持つパートナー企業を全国から探索・マッチングし、今年度以降に、各支援企業が取り組む事業の内容や方向性等を検討するところまで完了しておりますので、進捗の速い支援企業にあっては、今年度中に成果を報告できるものと想定しています。

3つ目の『域内技術のアウトバウンド事業』につきましては、特

	<p>色のある技術や素材等を新たな視点で用途展開する新商品・新サービスの開発等に取り組む事業者を支援するもので、こちらも伴走支援事業者を任命するところから事業を開始しており、全国のクリエイターと幅広いネットワークを有し、技術活用やマーケティング支援等に強みを持つ企業を伴走支援事業者に任命しております。この事業でも、同じく公募により事業者を募り、個別ヒアリング等を通じて、独自性と応用可能性の高い技術等を有する支援企業を6社選出しております。評価指標の目標4になりますが、この事業の目標数値に設定されている新用途開発件数につきましても、初年度は0件と設定されておりますが、この支援企業6社につきまして、昨年度の内に、伴走支援事業者のもと全国のクリエイターから各支援企業の独自技術等を活かした商品アイデアを募集・決定するところまで完了しております。</p> <p>最後に、今年度の事業実施方針となりますが、『域外技術のインバウンド事業』と『域内技術のアウトバウンド事業』により、具体的なモデル事業の創出に取り組みながら、これらの事業を通じて得られる途中経過や成果を、『今治共創ラボ』を通じて会員企業と共有し、3つの事業をしっかりと連携させながら実施することで、事業効果を高めて参りたいと考えております。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。以上で、3つめの事業、『新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業』についての説明が終わりました。</p> <p>ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。特にはございませんでしょうか。</p> <p>(質問等なし)</p> <p>先ほどの今後の方針・改善の説明にもありましたように、この事業はできる限り多くの市内企業に事業参画してもらう必要がございますので引き続いてそういったアプローチを担当課からもしていくような形で取り組みを進めて参りたいと考えておりますので、</p>

	<p>よろしく願いをいたします。</p> <p>本日いただきました皆様からいただいたご意見は、必要に応じまして評価調書の外部有識者による評価欄に記載をさせていただき、また今後の方針や改善点などにも、追記をさせていただく場合がございますので、本会議終了後に事務局の方で調整させていただきます。</p> <p>本日の議事内容である、計画の効果検証としては以上となります。ここで、何か全体を通して委員の方からご意見ありましたらお願いいたします。</p>
C委員	<p>この会には、私ども医療界という医師会の中から参加もさせていただいていますが、本日の懇談会というのは効果検証が中心でありまして、それから少し離れますが、基本的なことをお聞きします。</p> <p>実際この交付金を取得するためには、この地域再生計画が、基本となっておると思いますけども、現在のこの再生計画に産業とか、或いは観光とか、文化振興とか、そういう部門でこの効果を検証しておると思いますけども、これに加える事業というのは可能なのでしょうか。地域再生計画そのものを、私もすべてを見てはないのですが、この中に、例えば、医療とか、教育とか、そういうふうなものを加えることができるのですか。</p> <p>これを読みますと地域再生計画とは、世界中の人に、今治市を知りたいとか行ってみたいとか、体感したいとか、最終的には住みたいまちにするためには、という内容が基本のようなのですけども、その中で、そこまでいってしまうと交付金が取れない、交付金の対象事業にならないということであれば仕方がないのですが、そういうことは、この地域再生計画の中ではできないのですかね。</p>
座長	<p>「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というのを策定しておりますけども、地域再生計画をまず別個に作ってそれが戦略に位置づけられていることによって初めて、地方創生推進交付金であるとか、ハード整備のための地方創生拠点整備交付金とこういった、交付金</p>

	<p>が受けられるようになります。ですので、その分野ってというのは、いわゆる、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けられている事業でかつ、先ほど言った地域再生計画にかけられている事業であれば、それは可能だと思います。</p> <p>ただ、これにつきましては担当の課ともどういうふうな事業で組み立てていくかという話もあると思いますので、どういったことをするかという具体的な話がございましたら、市として担当課とそれから市民が真ん中課の方で、調整しながら計画できるものかどうか検討して参ります。</p> <p>或いは新たな事業を載せるとなりますと今日のように外部の評価も必要になります。</p> <p>さらに後々のフォローなど様々なことが関連してきます。それだけこの交付金を受けるためには、幾つかの制約が出て参ります。しかし、基本的には、いろいろな分野で活用は可能だというふうに私は認識しております。</p>
C委員	<p>今治市の中には、いろいろな計画があってそれを事業化していくためのセクションが沢山あると思いますけども、私がこの会に参加させてもらって実際に見ていると、市の職員の方が、きめ細やかにこういうふうな事業ができるのではないかと。観光だったらこうだろう、産業だったらこうだろう、というようなものをたくさん出していただいて熱心にやっているように思います。お金がかかっておりますので一生懸命になるのですが。</p> <p>他の部門で、例えば医療であれば医療のことに関して検証ができるというふうな、ここまでの検証をしておるのがなかなかないのではないかと思うので、手前みそに自分のことだけ言ってはならないかもしれませんが、住んでみたいと思うまちづくりという中にはやはり、他の分野も検証できる場がないかなあと。</p> <p>この地域再生計画の対象事業の中には、当てはまらなかったのかもわかりませんが、ぜひ、今治地域医療体制確保、そして医師会はやっておりますけど、医師会だけではなくて、今治市の、優秀な方々の具体的なお知恵を拝借したい。</p> <p>本来医療は県がやるべきものなのですが、県は抽象的なことをやって具体的なことはなかなか踏み込んでもらえないので、やはりピシッと入ってくるのは市の行政だと思っておりますので、今後その</p>

	<p>お願いをしたい。ぜひこういうふうなことができるのであれば、検討してみていただけたらと思います。お願いします。</p>
座長	<p>はい。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本会につきましては地域再生計画で策定して、既にもう実施をしている事業についての評価をいただくという目的であり、それぞれの専門分野の専門委員として、自治法上、任命をさせていただき、それぞれに独任制の専門機関として意見を頂戴するという場でございます。</p> <p>ですから、あくまでこれは地域再生計画なので、先ほどC委員さんからご提案があった件についてはまた別途、対応する形になろうかと思っておりますので、また改めて、担当課、健康推進課になろうと思えますけれども、どのようなことができるか、少し検討させていただきますので、お時間をいただけたらと思います。</p> <p>他にご意見はございませんでしょうか。</p> <p>(なし)</p> <p>以上で本日の議事がすべて終了いたしました。委員の皆さま、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>つづきまして、今後の予定について事務局よりご説明いたします。</p>
事務局	<p>それではご説明いたします。</p> <p>評価結果につきましては、市議会にもお示ししたうえで、市のホームページにて公表させていただきますので、ご了承ください。</p> <p>また、今後のビジョン懇談会の予定でございますが、今年度、あと2回の開催を予定しております。総合戦略及び共生ビジョンのKPIの効果検証を8月頃に、総合戦略及び共生ビジョンの所要の改訂を11月頃に実施いたします。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
座長	<p>ありがとうございました。今後の予定等につきまして、ご質問等</p>

ございませんでしょうか。

かまいませんでしょうか。それでは、本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございます。これをもちまして、令和4年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を閉会といたします。

皆様、本日はどうもありがとうございました。